

DEI トナ不動産 NEWS01 全国にデイトナハウスのガレージ商品 GARAGE-Dが増殖中です!



LGSパネルを使用した、デイトナハウスの鉄骨ガレージシステム「GARAGE-D」が全国で続々完成しています。卓越したフォルムと、外壁ガルバリウムの金属感。そして何と言っても特筆すべきは、艶消し黒でパウダーコーティングされた鉄骨フレームの鉄感です。利用されているオーナーさんたちからは、クルマの格納の利便性はもちろんのこと、特に夜間が素晴らしいとのこと。スポットライトに照らされた愛車とフレームの鉄骨が呼応するイメージは喜びそのものとのこと。もともとこのガレージを利用するユーザーは高度なクルマ好き、バイク好きの方です。クルマもバイクもその性能と愛着の根源は表面のフォルム以上に骨組み／フレームにあるとわかっている人も言えます。寡黙な鉄骨フレームの醸し出す鉄感が愛車が馴染んでいる様子がたまらなくうれしいとの感想も納得できることです。やはりクルマやバイクのポテンシャルに合わせたガレージを選びたいですね。

GARAGE-Dってなんだ?

単なる箱型の収納庫ではなく、今にも動き出しそうなフォルムのデザインを備えたデイトナハウスオリジナルのガレージシステムです。標準仕様は4種類。クルマの台数、使用用途に応じてお選びください。また、シャッターの仕様もオーバーサイズや巻き上げ式など自由に選択できます。詳しくはWEBサイトでご確認ください。

daytona-house.com/2017/10/03/garage-d-catalog

朝日に照らされた愛車のボディラインにしみじみと喜びを感じる。このガレージは特注仕様で、「二方面開放」の仕様です。このサブ開口が庭に面して、開放性を演出。単なる秘密の格納庫ではないコミュニケーションスペースとしてのガレージの可能性を開きます。ブラインドで開放性をコントロールしてさらに表情豊かに。



DEI トナ不動産 NEWS02 浜松のガレージアパート、ついに事前募集開始!!

デイトナ不動産として、見解を述べておかなければならないこととして、いわゆる「サブリース(一括借り上げアパート営業)」のことがあります。先ごろ大新聞の一面にも掲載されましたが、全国でサブリースにまつわるアパートオーナーと運営会社のトラブルが多発し、集団訴訟が発生しているとのこと。確かにかつては、「金のなる木」としてのアパートの営業が幅を利かせ、賃貸居住者の募集は一切まかせっきりというオーナーが多かったのも事実です。賃貸経営は、当たり前ですが、「経営」ですので、オーナーはもっと積極的に居住者募集に自ら神経を使うべきだと考えるわけです。その意味ではデイトナハウスのガレージアパートはクルマ好きオーナーにとっては同行の士を集めるのですから、楽しく積極的。これからの賃貸経営にびびりなのです。

そんな浜松のGLBも、4月のオープンに向けていよいよ事前賃貸募集開始です。気になる方は、WEBサイトをチェックしてみてください。

Daytona HOUSE ×LDK Shizuoka
053-482-7415 daytona-house.com/balanceGLB



現役の田んぼの上に運営する「田んぼレストラン」。春水盤上の「鉄の金閣寺」が、四季折々の表情を変えていく。デイトナハウスが座標軸になって、普段見慣れた風景にエネルギーを吹き込む。



DEI トナ不動産 COLUMN

農業のそれ自体を元気にしたい! これからの農地転用について考える

耕作放棄地ではなく、むしろ現役の農地に「農業それ自体を元気にする建物」を立てさせてほしい。農地転用の新しい可能性を提案します。

Text/Atsushi TAMADA



耕作放棄地とは?

【以前耕地であったもので、過去1年以上作物を栽培せず、しかもこの数年の間に再び耕作するはかりしなかった土地】と、農林水産省は定義している。ここ数年後継者不足による増加が著しい。

農地に関するニッポンの法律「農地法」は、農業と農地を守る法律として存在しています。そこでは主に、耕作を放棄した土地や生産量が上がらない土地に限り、気の遠くなるような手続きの末に、ようやく、地目変更が許されるということになっていきます。実際に元氣な農地の真ん中に、面白い建物を建てようと思つたところで、その許可はなかなか下りません。でも、農地に建てられないわけではなく、農地転用という申請が認められれば、今は農地にも建物を建てることのできるのです。とは言え農地転用の現状は、耕作が放棄された土地や生産性の低い土地に、金のなる木。としてアパートや建売住宅を次々に建築するというものが大半。ニッポンの美しい景色を代無しにしてしまふ建物で溢れかえつてしまつていきます。農地法の制定の意思に反して、必ずしも農地は守られていませんし、農業は元氣になっていません。良く考えてみると、その「守る」というスタンスこそ問題があるかもしれません。農業従事者／農家も誰でもなれるわけではありませんが、その既得権を守るといふ形にこれが進んでいるとすれば、そ

れこそ最悪です。むしろ多くの農業従事者以外の人が、農業に興味を持ち、自分の人生に引きつけて考えることが一番大事です。農業体験イベントや貸農園が活況なのも、そのように考える人が増えているからです。だからこそデイトナハウスのには、むしろ元氣な農地にこそ、農業それ自体を元気にする建物を作りたいのです。例えば現役の田んぼの真ん中にごと、田んぼレストランを建築したい。春は水盤の上に浮かび、夏は伸び盛りの緑に囲まれ、収穫の秋には黄金色の海の中に。そして冬は真っ白な雪の中に浮かび上がるのです。四季折々の里山の営みを改めて認識するには建物Ⅱ人が集まる施設という座標軸があつたほうがいいと私たちは考えます。価値というのは、そこがいかなる。金のなる木。であるかという指標ではなく、生きるためのエネルギーを発信できるポテンシャルを持っているか? という意味に解釈したい。デイトナハウス不動産には、そのような考え方が根底にあるのです。

今は元氣な農地も、後継者不足と環境の変化で危機に瀕している。奈良時代の昔から、農家は土地に縛り付けられてきましたが、インターネットの発達で農家が自主的に外部世界と流通することを可能にしています。起爆剤を世界に発信して、外から人を呼び込むこともできるのです。



出雲モーターホテルが建設される場所も元々は農地。水平線に沈む夕日があまにも美しいロケーションに、現在出雲に建築中のモーターホテルですが、この海辺の敷地も老人が細々と自家用のトマトを栽培していた耕作地でした。日本中にはこのような土地が実に多くあるのです。

